

令和2年1月23日

平成31年度後期「授業公開」実施状況報告

FD委員会付 授業公開・授業評価実施部会

1 実施結果

(1) 実施期間 令和元年11月11日(月)～11月29日(金)

・実施要項(平成29年11月1日施行)に沿って実施

	平成31年度前期及び後期 (2019年度前期及び後期)	平成30年度後期 (2018年度後期)	備考(対比)
実施期間	前: 7/1(月)～7/19(金) 後: 11/11(月)～11/29(金)	11/26(月)～ 12/14(金)	平成31年度より 前期授業公開を実施。
各学部等への実践教員選定依頼日	前: 6/6(木) 後: 9/19(木)	11/1(木)	
報告期限(当初)	前: 6/14(金) 後: 10/4(金)	11/9(金)	
参観教員申込期限(当初)	前: 6/26(水) 後: 11/1(金)	11/19(月)	

(2) 「授業公開」実施授業、及び参観教員数 8頁参照

	平成31年度前期及び後期 (2019年度前期及び後期)	平成30年度後期 (2018年度後期)	備考
授業公開科目数	美術・院 合計11 (前: 6 後: 5) 音楽・院 合計10 (前: 3 後: 7) 全学 合計2 (前: 1 後: 1)	美術・院 7 音楽・院 9 全学 2	
授業公開した教員数の割合(年間) ※公開者数は実人数	32.9% (23/70) 美術 35.5% (11/31) 音楽 35.7% (10/28) 全学 25.0% (2/8) 研究所 0% (0/3)	33.8% (24/71) 美術 25.8% (8/31) 音楽 48.3% (14/29) 全学 25.0% (2/8) 研究所 0% (0/3)	教授、准教授、講師を対象

参観した教員数の割合（年間） ※参観者数は実人数	50.0% (35/70) 美術 67.7% (21/31) 音楽 28.6% (8/28) 全学 62.5% (5/8) 研究所 33.3% (1/3)	63.4% (45/71) 美術 64.5% (20/31) 音楽 65.5% (19/29) 全学 62.5% (5/8) 研究所 33.3% (1/3)	教授、准教授、講師を対象
(内訳)	(前期) 35.7% (25/70) 美術 48.4% (15/31) 音楽 17.9% (5/28) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3)		
	(後期) 34.3% (24/70) 美術 45.2% (14/31) 音楽 17.9% (5/28) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3)		

(3) 「授業公開」レポート、及び参観レポートについて 9頁参照

## 2 総括

後期「授業公開」を前期と同様約3週間にわたって実施した。「授業公開」に選定された科目数は前期よりも3科目増え13科目であった。年間を通してみると、数は、前期・後期の2回の実施により、昨年度の18科目から23科目に増加した。「授業公開」の実践教員の数は全体の32.9%となり、「年間を通して3分の1」程度とする目標値がおおむね達成されている。

一方で年間を通して1科目以上参観した教員数は、本学教員70人中35人で、全体に対する参観率は50.0%となり、前年度後期(63.4%)より下がる結果となった。また、音楽学部の3科目(「楽曲分析II、楽式論II」、「和声IV」、「弦楽合奏」)は参観人数がゼロであった。あわせて、専攻によって参観率にばらつきがあることも分かった。全体の参観率を向上させると同時に、参観人数がゼロとなった科目についてはその要因を検証する必要がある。

以上の結果およびレポートの内容を踏まえて、部会では以下の意見が上がった。

- (1) 「授業公開」の実践については、前期そして後期と様々な教員が参加することによって、年間の目標値がおおむね達成されていることから、次年度も年間2回の「授業公開」を実施し、引き続きより多くの教員の参加を促すことが大切である。研究所の教員も各学部や全学教育センターの科目を担当しているので、「授業公開」の実施に参加することが望ましいと考える。

- (2) 「授業公開」に選定されたものの、参観教員がゼロとなった音楽学部の科目については、公開日が重なっているものがあつたので、3週間の実施期間をフルに活用してなるべく日程をずらす工夫が必要ではないか。美術工芸学部においても、複数の科目が同じ日に公開がされていた。参観日の選択肢を増やすためにも、科目を選定する際には同じ日に授業公開が集中しないように調整が必要である。
- (3) 教員は過密な業務やスケジュールを抱えており、年間に2回授業公開を実施しても、全員参加という目標値には程遠いというのが現状である。目標値が妥当かどうか、そして全員参観のためにどのような方策が必要なのか、引き続き検討が必要と思われる。次年度に当たっては、各教員が年間を通して計画的にFD活動に参加できるよう、「授業公開」の年間計画をFD委員会から各教員へ4月最初に周知していただきたい。
- (4) 「授業公開」後の意見交換に関しては、教室の使用状況次第では休み時間には実施できない可能性があるとの指摘が実践教員からあつた。授業改善に向けての意見交換は重要であるが、確実に実施するためには、授業を10分ほど早めに終了して意見交換の時間を確保するなど、実施方法の改善が必要と考えられる。あるいは、意見交換は「できる限り」実施するという表現にするのか、検討が求められている。
- (5) 「授業公開」のほかに「公開授業」という名称が使用されており、統一してほしいという意見がレポートに見られた。大学院が実施している一般向けの「公開授業」と紛らわしいという指摘もあり、レポートやスキーム図にある「公開授業」という表記は「授業公開」に統一して文言を調整することとした。
- (6) 各種レポートの取りまとめについては、今回から担当庶務が担うことになり、作業がよりスムーズになった。また、実践者と参観者のレポートをシートにして「授業公開」科目ごとに一つのファイルにまとめられているのも改善点の一つである。

### 3 課題と改善案

参観教員数の向上にむけて

- (1) 教員へ以下の「授業公開」日程を4月（の教授会？）において周知することを提案する。  
前期授業公開期間（案）：令和2年6月15日（月）～令和2年7月3日（金）  
後期授業公開期間（案）：令和2年11月16日（月）～令和2年12月4日（金）
- (2) 授業公開科目はできるだけ同一日に集中しないように選定し、教員が参観できる日時や科目の選択肢を増やすようにする。

### 4 事業運営に係る特記事項

- ・教員からの参観申込は、当初11月1日の期限を設けたが、参観したい授業科目への直近（前々日）申込に対応した。
- ・両学部教授会にて、公開科目の周知及び参観呼びかけを行った。
- ・授業公開の前日までに学科室に事前連絡して、円滑な実施に対応した。
- ・実施報告を整えるように各様式をExcelファイルで提供した。

以上